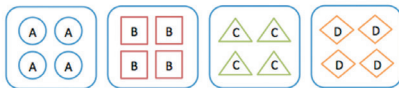


● アクティブラーニングと協同・協調学習の関係性

STEP 1. Expert Group で担当課題を吟味



STEP 2. Home Group で共有



● 研究例: Jigsaw を応用した協同と協調

英語学習の場においても、協同学習の一形態である Jigsaw という技法を活用することで、一人ひとりの学習者が自分と仲間の学習に責任をもつ協同 (cooperation) を生むことができる。本研究は、この方法に加えさらなる「仕掛け」が協調 (collaboration) を生むという立場から、英語教育における具体的な指導法の吟味と提案を行っている。

近年、日本の教育界では、能動的な学修を意味する「アクティブラーニング」が注目を集めている。外国語教育学の研究でも、教室における外国語習得のためには、教師と学習者だけでなく、学習者同士の相互行為の質を高めることの重要性が指摘されている。では、実際の指導では、具体的にどのような方針・方法で授業を設計し、実施すれば良いのだろうか。

当研究室では、このような外国語 (特に英語) 教師の疑問に応えるべく、学習者同士の協同 (cooperation) と協調 (collaboration) を活かした言語教育に関する理論的・実践的研究を行っている。具体的には、ペア・グループ学習を有効活用するための2つの中心的なアプローチである「協同学習 (cooperative learning)」と「協調学習 (collaborative learning)」を軸に、学習者同士の学び合いの効果を高める具体的な指導方針の提案、教材・タスクの開発、及びそれらの効果検証を進めている。

【研究テーマ】

- 学習者同士の協同・協調を活かした英語教育
- 学術目的の英語 (English for Academic Purposes)
- 産出技能 (speaking, writing) の育成
- タスクを活用した言語教育
- 意味を重視した文法指導

キーワード

英語教育、協同学習、協調学習、学術目的の英語、産出技能、タスク

相談に応じられる内容

英語学習・英語指導に関する悩み、学習者同士の学び合いを活かした指導